

Q3 不登校の主な要因や背景にはどのようなものがありますか。

第15期中央教育審議会（平成8年）の第1次答申に、いじめ・不登校にかかわる次のような文章があります。

現代の日本社会は、物質的には豊かになったものの、人間関係が希薄化する傾向にあるという問題、家庭や地域社会における教育力が低下しているという問題、学校が子どもたちの多様な実態に十分対応できていないという問題など、様々な問題を抱えている。そうした中で、子どもたちについては、生活体験・社会体験・自然体験、異年齢の者との交流、社会性が不足しているのではないか、他人への思いやり、生命や人権の尊重、正義感や遵法精神等の基本的な倫理観が十分養われていないのではないか、自己抑制力、自立心等の生活態度にかかわるしつけが十分なされていないのではないか、ストレスを抱えているのではないか、など様々な問題が懸念されており、これらがいじめ・登校拒否の問題の背景として浮かび上がってくる。



不登校の要因や背景は、家庭、学校、本人に関わる様々な要因が複雑に絡み合っている場合が多く、さらに、その背景には、社会の価値観の多様化、学校や教育に対する期待や意識の変化などが少なからず存在しています。そのため、不登校の問題を教育だけの課題としてとらえることには無理があると考えるのが自然です。

よって、学校だけでなく、家庭・関係機関・地域社会などと連携して対応できるようにしていくことが大切であることを改めて念頭に置く必要があります。目の前の児童生徒を取り巻く事実と対峙することからのみ、その要因や背景がみえてきます。